

オケクラフト 40 周年記念事業 特別展
第 32 集 日本の手仕事道具 - 秋岡コレクション 企画展

【オケクラフトの成分表 - ヒト + モノ▶▶コト -】終了報告

10 月 6 日から 11 月 19 日まで開催していました、秋岡コレクションの企画展「オケクラフトの成分表 - ヒト + モノ▶▶コト -」が、先月終了しました。昨年に比べ 100 名ほど来館者も増加し、町民の皆さんにも多く足を運んでいただきました。企画展に足を運んでいただいた皆さん、ありがとうございました。

オケクラフトがどのような要素を持って構成されているのか、知っていただく機会になったでしょうか？オケクラフトについて、また秋岡コレクションについて興味を持っていただく機会になっていれば幸いです。現在、秋岡コレクションの企画展は、年に一回の開催となっていることから、次回開催はまた来年となりますが、町内施設のオケクラフトセンター森林工芸館、図書館にはミニギャラリーとして秋岡コレクションが展示されていますので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。



【東北の郷土玩具「こけし」】

- ◎江戸時代から続く工芸品としての「伝統こけし」
- ◎形や絵付けが自由な「新型こけし」
- ◎作家の独創性が見られる「創作こけし」

に区別されています。

こけしの誕生には様々な由來が伝えられていますが、江戸時代後期、東北地方の温泉地のお土産として作られたのが発祥といわれ、木地師達が湯治場で販売する子ども向けのお土産品として作り始めたことが誕生の有力な説とされています。こけしが誕生した当初は共通の名称がなく、各地で様々な名称が付けられていましたが 1940 年（昭和 15 年）に、職人や愛好家、関係者が集い、「こけし」と、ひらがな 3 文字で統一することが決められました。

今回は秋岡コレクションに収蔵されるこけしの中から、3 つの種類について、その特徴とともに紹介します。

※ 今日は何を知ろうか ※



【南部系こけし】

頭と胴が別々に作られているはめ込み型。胴の形は中央がふくらんだものや裾がくびれたものなど様々。頭はゆるく固定されて、ぐらぐら動くのが特徴。木肌を生かした無彩色が主流。胴体にも模様は少なく、ろくろ線や手描き模様が少し描かれている程度。

（岩手県盛岡、花巻温泉）



【木地山系こけし】

胴と頭が 1 本の木から作られる作り付け構造。頭は小さめで細長いらっきょう型、大きな前髪のおかっぱに赤いリボンのような髪飾りが描かれる。胴は太めのストレートで、縞模様の着物が特徴的。菊模様や梅鉢模様の前掛けをしている場合もある。

（秋田県木地山、川連）



【鳴子系こけし】

目上の上まぶただけ描かれ鼻は丸い事が多い。御所人形のような前髪が印象的で、胴体には菊やカエデなどが描かれる。胴は太めだが肩と裾が張っている。頭部は肩にはめ込み構造で、首を回すとキイキイと音が鳴るのが大きな特徴。

（宮城県鳴子温泉）

今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品
毎日 オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！



サイズ / 価格: φ88mm 2,750 円（税込）
φ96mm 3,080 円（税込）
φ104mm 3,300 円（税込）
φ112mm 3,630 円（税込）
φ120mm 3,960 円（税込）

樹種：エゾマツ

今月の一品は、【工房優木】のエゾマツを使用した「身長椀」です。日本には「身度尺」の考えに基づいて作られた、「身長に合わせたサイズの食器」があります。手でもって使用されることを前提とした日本の食器には、特に顕著に見られるもので、お椀や箸などは手の大きさに合わせて選ぶと良いとされます。中でもお椀は、両手の親指と中指で輪を作った時のサイズが丁度よいとされています。

身長椀は子どもの小さな手に収まるお椀から、大人の手に収まるお椀まで、多くのサイズを揃えています。自分に合ったサイズと贅沢なお椀を選んでみてはいかがでしょうか。



ショップスタッフ
福井

どま工房の貸館再開について

どま工房の貸館について、当初お知らせしていた 12 月 2 日（土）からの開始は延期させていただき、12 月 11 日（月）より、どま工房の貸館を再開いたします。ご利用いただいている皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

また、どま工房の年内の貸館は 12 月 24 日（日）までとさせていただきます、年明けは令和 6 年 1 月 13 日（土）から再開させていただきます。

「森林工芸館のあれこれ」

発行の一時休止について

令和 2 年より発行を開始した「森林工芸館のあれこれ」ですが、紙面の掲載内容見直しのため、今月発行される no.45 をもって一時休止とさせていただきます。これまでに発行した紙面につきましては、森林工芸館のホームページの他、QR コードからもバックナンバーをご覧いただくことが可能となっております。

今後、発行が再度開始される際には、森林工芸館ホームページ、つくし紙面などでお知らせいたします。

こちらの QR コードから「森林工芸館のあれこれ」バックナンバーをご覧くださいませ。



毎月 1 日発行
森林工芸館
発行

森林工芸館の
あれこれ